

地域活性化伝道師プロフィール		分野	地域産業・イノベーション・農林水産業	観光・文化	福祉・教育	環境	まちづくり
ふりがな	えのきだ りゅうじ						
氏名	榎田 竜路						
所属	名称	合同会社アースボイスプロジェクト					
	役職	代表社員					
連絡	住所	(公開)	〒 248-0007 神奈川県鎌倉市大町5-13-10				(職場)
	連絡先	(公開)	E-Mail ryuji[at]アットマークev-pj.com				
		(公開)	TEL 0467-24-1740	FAX 0467-50-0280			
	連絡方法	E-Mailでお願いします					
略歴	<p>プロデューサー 音楽家 合同会社アースボイスプロジェクト代表社員 北京電影学院ニューメディアアート科客員教授 秋田大学大学院理工学専攻非常勤講師 特定非営利活動法人映像情報士協会理事長 復興支援メディア隊 代表 内閣府地域活性化伝道師 公益社団法人東京オリンピック・パラリンピック競技大会組織委員会 「経済・テクノロジー」専門委員会委員(2017・2021年度) (公社)整体協会 身体教育研究所助法教授資格保有者</p> <p>1964年生まれ。法政大学経済学部卒業。 2001年、アートによる地域活性及び子供たちへの感覚教育を目的とし、任意団体横浜アートプロジェクト設立。2002年8月、神奈川県よりNPO法人の認定を受け、NPO法人横浜アートプロジェクト設立、理事長に就任。非営利コンサートシリーズ、横浜学生映画祭等アートイベント開催、「粘土団子」手法による緑化事業「Rainmaker Project」実施(ウニア)、日中韓共同映画製作、各種ワークショップ開催等実績を積み、また、20代半ばより、日本の伝統文化の底にある「型」の概念に着目し、研究してきたが、2005年北京電影学院ニューメディアアート科客員教授就任を機に、「型」を映画教育に応用し、認知開発手法として体系化、2009年10月には情報戦略立案～映像等コンテンツ制作までトータルな情報戦略支援、地域や企業を担う人材育成を目的として「合同会社アースボイスプロジェクト」設立、代表社員に就任。 2010年より東京都墨田区を皮切りに、認知開発手法を活用したメディア講座を全国で実施し、中～大学までの学校教育機関、一般企業、経済支援団体や観光振興団体、行政や文部科学省、経済産業局など達べ約70箇所1500人以上の受講生を輩出して来た。 また、2017～2021年度にはオリンピック・パラリンピック2020ホストタウン事業の一環として、選手とホストタウンである行政や地域住民の距離を縮め、末長い交流ができるよう、中学生や高校生に認知開発手法によりポスター制作のワークショップを実施し、リアルな市民交流に貢献。(岩手県野田村、同杵町、同達野市、秋田県仙北市、福島県飯館村、同南相馬市、静岡県静岡市、徳島県、沖繩県)</p> <p>アースボイスプロジェクトの代表を務める傍ら、オリンピック・パラリンピック組織委員(2021年度まで)、内閣府「地域活性化伝道師」等、政府の地域活性化分野のアドバイザーとして全国に幅広いネットワークを有している。</p>						
著作・論文等	<p>生産性の本質は「感じ方」にあった～「認知開発手法」で新たな価値を見出す力を身につける～(2022年/電子出版/金風舎) https://amzn.asia/d/TfVtGL9</p>						
取組概要	<p>■認知開発手法の高い人材の育成 「認知開発講座」 日本の伝統文化の底にある「型」の概念に着目し、研究してきた。「型」を映画教育に応用し、認知開発手法として体系化。その手法を各地で指導し、90・100秒の短編映像を制作させ、その過程でモノの見方が変わり、地域や企業、自分自身の新たな側面に気づくという講座。取材によりお互いを深く知ることにより地域間の連携が深まるメリットもあり、これまでに日本全国のべ50箇所以上で1000名以上の受講生を輩出して来た。実施場所:秋田県、松山市、大阪市、島根県(高等技術校、中央会)、多摩地域(八王子市、羽村市、昭島市、狛江市他)、阿久根市(阿久根市、鶴翔高校)、那覇市、島根県、徳島商業高校、鹿児島薩摩川内市(薩摩川内市、川内商工高校)、岡山県津山市(津山市、津山東高校)、行方市(行方市、麻生高校)、兵庫県市川町、奈良県吉野町(吉野町、吉野高校)・川上村、九州経済産業局、中小機構、文部科学省他</p> <p>■地域や企業の中に埋もれている「埋没資産」の発掘及び可視化 認知開発手法に応用したメディア手法「序破急モデル」を開発。同手法を活用して制作や監修した映像は2000本に及ぶ。中小企業の連携促進やITを活用した情報配信システム構築、ブランディング等と組み合わせながら、全国に展開している。特に企業や地域に「物語」を見出し、それを価値ある情報に編集・デザインし、グローバルに展開する能力は卓越しており、東日本大震災、熊本地震後の復興や中小企業の活性化に尽力している。</p> <p>■情報戦略立案と実行 (例)アクティブシニアの就労・社会参画を目的とした情報提供及びプロモーション 人生100年時代となり、どの地域でもアクティブシニアの活躍が期待される中、A市ではアクティブシニアの就労や社会参画を目的に各種事業を展開中。 アクティブシニアの取材撮影を実施することで地元高校生と、伝統食を広める活動を展開中のシニア手作り加工グループとの連携を推進、海外から料理専門家を招聘し、地元の食材や、グループが作った加工品を利用した料理教室を開催。高齢者と若者が料理教室で繋がることで、全く新しい商品の開発に成功。地域の若者とシニアの知恵を連携させる新しい試みとして注目されている。</p> <p>■芸術文化による国際交流・日本紹介・インバウンド復興事業 復興学生映画祭「種別開演50周年記念映画制作事業」[Tokyo Downtown Cool Media Festival]など、アジアを中心とした映像教育機関の連携事業を実施してきた実績から、日本映画大学、北京電影学院、韓国フィルムアカデミー、台湾藝術大学、iDProjects(臺灣本部)等アジア各国・地域を代表する映像教育機関及びアーティストとの太いパイプを有している。そのネットワークや実績を元に様々な国際交流事業を実現してきた。東日本大震災後に中国中央電視台第一チャンネルのクルーを招聘し、2012年3月11日に特別番組を中国全土で放映。番組は、その年の「アジア太平洋放送連盟」のグランプリを受賞したのもその一つ。 そのほか、熊本地震や北海道地震の復興をインバウンドの側面から支援すべく、中国のインフルエンサーやメディアチームを招聘し、wechat等で動画コンテンツを制作、SNSで話題となった。 また、日本の伝統的な身体運用研究の見地から、経済産業省が2016年に制作し、各大使館に置かれている海外向け日本文化紹介誌「wonder! Nippon」の編集・執筆に関わる。 http://www.meti.go.jp/press/2016/03/20170308001/20170308001-1.pdf</p> <p>さらに、2017年9月にはシンガポールにて毎年開催されているアジア最大級のエンターテインメントイベントAll That Matters2017カンファレンスCool Japan2020においてパネリストとして参加、日本文化についての見識や可能性について語り、大きな反響を呼んだ。</p>						
メッセージ	<p>人の知覚の入り口は直感です。直感的に共感したものとしか関わらないのが人の性質です。そしてこの直感が「ものの見方」の正体です。 人は直感的に共感できる情報を選択し、直感のフィルターを通った情報以外、思考の対象にならず行動を喚起することはありません。 あなたの組織や地域は「ものの見方を変える技術」を持っていますか？ 直感的な共感を生み出すことができれば、「この会社で働きたい」「この地域で暮らしたい」「もっと成長したい」といったモチベーションを人の中に生み出すことができます。 世界には直感(ものの見方)を機軸として大きなビジネスを産んでいる業界があります。それは映画業界です。映画の技術に応用して、もの見方を変える方法——認知開発手法——を開発しました。 認知開発手法は、「物語の中に新しい関係性を見出し価値化する力」を人と組織の中に生み出し、イノベーションが起こりやすい土壌を醸成します。</p>						
関連ホームページ	<p>メールマガジン「榎田竜路の地声で行こう!」 榎田が日々感じていることを、メディアの視点、身体感覚の視点からわかりやすく解説。毎週配信。(登録無料) →https://ev-pj.com/company/profile/#newsletter</p> <p>アースボイスプロジェクト http://ev-pj.com/</p> <p>復興支援メディア隊 http://ramediateam.org/</p> <p>榎田竜路 Facebook https://www.facebook.com/ryuji.enokida?ref=ts</p> <p>榎田竜路 note</p>			活動エリア	全国		

※ 公開できる情報のみ掲載しています。
※ 依頼・相談に伴う謝礼等条件につきましては、双方協議の上、決定してください。
※ メール送信は、「アットマーク」を@に置き換えて行ってください。